

「金沢 彩の庭ホテル」概要

加賀百万石の城下町として知られる金沢市の西郊に 3 月 9 日、「金沢彩の庭ホテル」がオープンします。北陸に新たな時代の幕を開ける北陸新幹線金沢開業を前に、これからのゆとりの時代に合った新しいコンセプトホテルが誕生するのです。

当ホテルは 4,593.75㎡の敷地に、鉄骨 4 階建て一部 2 階建てで建設され、建築面積 1,557.52㎡、延床面積は 4,938.03㎡。総客室数は 64 室(ダブル 7 室、ツイン 57 室)、朝餉処(60 席)、男女別湯屋、ライブラリー、トレーニングルームなどを備えます。同市内で建設関連の企業グループを形成する高田産業株式会社が創業 70 周年の節目に合わせ、副業化を目指し元生コンクリートやアスファルト合材製造などのプラントがあった本社工場跡地を活用しました。

宿泊特化型のホテルモデルを基本に、シティホテルの安全性、信頼性や旅館の寛ぎ感を兼ね備えた新しいスタイルのホテルを目指しており、個人やグループ利用の観光客にターゲットを絞り、ハード、ソフト両面での集中と選択を進めました。

基本設計及び施工管理は京都市に拠点を置くコロコロアーキテクト一級建築士事務所が担当、内装設計は J. フロント建装株式会社(本社・東京)が行い、内装全般を JTB 商事株式会社(同)が担当しました。施工は高田産業グループ内の株式会社高田組(本社・金沢市)が請け負いました。

コンセプトは「金沢の別邸」

当ホテルが掲げるコンセプトは「上質な金沢の空間と時間」を感じていただく「金沢の別邸」です。水と緑に囲まれた施設は、これまで金沢というマーケットにはなかった金沢風のホテルといえます。金沢という街が大切に四季の感覚、路地に見つける落ち着き、町家が持つ懐の深さなど、街全体が醸し出す凛とした気品と自然と共生する安らぎを兼ね合わせるホテルを目指しました。

キャッチコピーは

「四季の彩りを、かたわらに。」

「暮らすように泊まる金沢の別邸。このホテルには上質な金沢があります。」



コンフォートツイン デラックス

金沢に流れてきた、時間を愉しむ。金沢に息づいている、空間を楽しむ。加賀百万石の時代から400年あまりの時間が育んだこの街の美しさを、触るように体感してほしいという思いから、考えました。

また、当ホテルは四季の感覚を大切にします。春から夏、秋から冬へと移り変わる金沢の季節感を表現するうえで、加賀友禅や金沢九谷など伝統工芸が彩色に使う「加賀五彩」の色、「藍」「^{えんじ}臙脂」「黄土」「草」そして「古代紫」を使い、ロゴマークを選定しました。マークの形は古代文様である「七宝柄」です。敷地内での重要なアクセントである庭の木々の葉の形状をイメージしており、「彩の庭」の頭文字Sも表わされています。季節を表現する五つの落ち着いた色調のグラデーションで彩色されたマークは、ホテルの名前に籠めた思いを的確に表現しています。

「金沢風」を三つのポイントから演出

「金沢風」の特徴は以下の三つのポイントに集約できます。一つめは「四季を彩る四つの顔を持つ庭」。名前の由来の通り、四季の感覚を大切にしたい庭がこのホテルのコンセプトを最もわかりやすく表現します。建物を取り巻く「森の庭」「川の庭」「中の庭」「山の庭」のそれぞれには、豊かな緑や季節に合わせて咲く草花、そして水の流れがアクセントを加えます。「森の庭」はアプローチからエントランスにかけて、豊かな緑でゲストをお迎えします。敷地を横切る大野庄用水の流れを取り込む「川の庭」は、これから足を踏み入れる金沢という空間と、そこに流れる時間への素敵なアプローチとなります。「中の庭」は金沢の町家に潤いをもたらす坪庭をイメージしました。昼は陽光をめぐらし、夜はライトアップとともに月の光を受ける吹き抜けの静寂の空間を演出します。湯屋ゾーンやロビーから望む「山の庭」は金沢の里山をイメージして作りました。

二つめは金沢の街並みや町家のイメージを館内に取り込んでいることです。金沢の街並みは金沢城を中心に放射線上に伸びる幹線道とともに、幾重にもぐるりと城を巡る道筋が特徴といわれます。館内に「回」のイメージを取り込み、町家に見られる坪庭を思わせる「中の庭」を囲んで、奥に長い回廊が巡る空間が金沢らしさを演出します。客室はさながら、ひとつの町家。奥行きを感じさせるゆとりの広さが、古都金沢を訪れた喜びを実感させることでしょう。

三つめは金沢の風情を紡ぐ水の流れです。男川とよばれる犀川と女川と称される浅野川、そして網の目のように町中を流れる用水がしっとりとした金沢の街の雰囲気をついできたといえます。新たに開業する北陸新幹線が人とモノ、情報を運ぶ横糸とすれば、縦糸は悠久の歴史を経てなおこの地の里山里海に恵みをもたらす白山山系からの水の流れともいえます。敷地内を流れる大野庄用水の分流は白山山系から犀川を経て、豊かな水をもたらしてく

れ、汲み上げた百年伏流水といわれる地下水は湯屋に引き込まれ、柔らかな湯ざわりをゲストに楽しんでいただきます。この水を各庭にも取り入れ、流れの風景を演出します。

個人利用の観光客にフォーカス

北陸新幹線の金沢開業により、北陸を訪れる入り込み客は首都圏を中心に約 300 万人増加すると試算され、その多くは観光が目的と考えられます。東京との時間的距離が短縮されることで日本国内各地、そして海外の拠点との距離が短くなることになり、J R の主要駅や羽田、成田の国際空港を経由して、国内外から多くの観光客が北陸を訪れるとみられます。同ホテルでは主要ターゲットを観光客に絞るとともに、家族連れや女性グループなど個人利用、グループ利用にフォーカスして客室などの設計を進めました。総客室 64 室の平均面積が40㎡と金沢市内のホテルでは最大規模で、すべてダブル、ツインタイプ。収容定員は 197 名となり、一部屋で最大 7 名、コネクティングルームを利用いただくことで 3 部屋連結最大 10 名までを受け入れることができます。

主力となるデラックスツイン(45㎡)はシモンズ社製ツインベッド(1,400㎜幅)2台に畳仕様のリビングスペースを設けた和洋折衷スタイル。リビングには同伴者2名までエアウィーヴ社製四季布団を敷いてお休みいただけます。同四季布団は石川県のホテルでは初めての本格的導入となります。料金は2名利用で1室26,000円(税別)で、最大5名の利用の場合、1名当たりが8,000円(同)とお得に使えるのが特徴です。リビングとベッドルームが独立しているセパレートタイプと、一体型のコンフォートタイプを選択可能です。

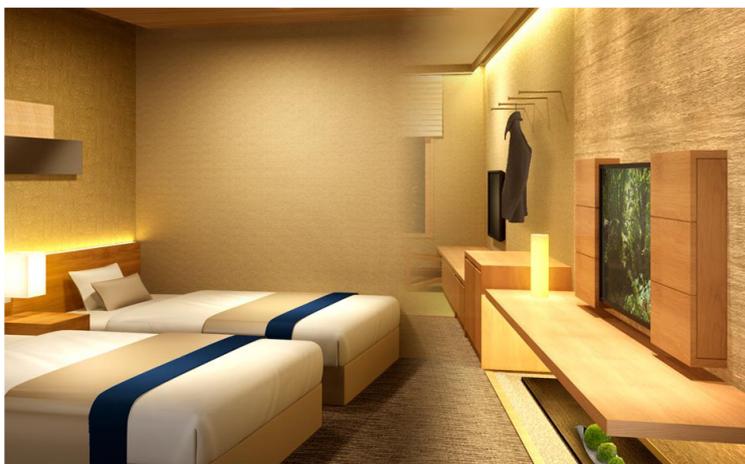
このほか、ファミリー利用やスイート仕様を想定した75㎡のプレミアタイプ、2、3名利用を想定したスタンダードツイン(32㎡)、3名利用限定のトリプル(45㎡)、ビューバスが楽しめるコーナーツイン(45㎡)、1,800㎜幅のダブルベッドを採用したコーナーダブル(45



セパレートツインスタンダード



コンフォートツインスタンダード



セパレートツイン デラックス

m²）、ビジネス利用にも対応するスタンダードダブル（19 m²）などバリエーション豊かなタイプを用意。ユニバーサルデザイン仕様を含みバリアフリールーム（42 m²）も3室備え、車椅子利用者や体の不自由な方の利用に対応します。また、中長期滞在を促進するため、プレミアタイプの客室など3室にIHヒーター、電子レンジを備えたミニキッチンも装備しました。中長期滞在を促すために料金面でも三連泊まで安くなるシステムを設定しています。

内装設計は2階を和モダンのイメージを追求した明るめの色調、3、4階は落ち着いたトーンで統一したデザインを採用しており、いずれの客室にも金沢の風情を表現する「加賀五彩」の色味をアクセントで使用しています。

すべての客室で靴を入口で脱いで使用してもらうシステムで、寛いでお過ごしいただけます。部屋の窓を広く取っており、高さ1,660mmの開放的な窓を通して、庭のたたずまいはもとより、金沢市街の街並みや白山山系の景色が望めます。すべての部屋でバスルーム（スタンダードダブルのみシャワーブース）が独立して洗い場付きとなっており、バリアフリールーム、スタンダードダブル以外はトイレと洗面スペースが分離しています。室内はパブリックスペースと同様、Wi-Fiのフリー環境を整え、有線でのLAN接続も可能です。また、バラエティ豊かなコンテンツを持つVODも40インチサイズ以上のテレビ画面により無料で楽しんでいただけます。全室禁煙ですが、1階に喫煙室、3階に喫煙できるテラスを設けています。

金沢の空間と時間に誘うストーリー

当ホテルではゲストをお迎えするストーリーを大切にします。ホテルライフは正面車回りを囲む「森の庭」を視線にとらえたところから始まります。ホテルの顔ともなるエントランスは茶室建築という「待合」です。出発、到着の際の待ち合わせなどで、大きめのガラス越しに「森の庭」「川の庭」の風情を楽しむことができます。吹き抜けになった通路から続くのは大野庄用水の流れを渡る橋。この橋こそ、大都会の日常から金沢の空間や時間へワープする架け橋といえます。扉を開けてロビーに入ると、木の材質をふんだんに採り入れたロビーがお客様を迎えます。昼は外光を採り入れた明るい空間、夜は間接照明を生かした落ち着いたスペースになるよう工夫を凝らしました。奥に佇む黒松の大木はシンボルツリーとして、能舞台の鏡板の松のように落ち着きを与えてくれます。



待合

チェックインはウェルカムドリンクである加賀棒茶と和菓子のサービスを受けながら、ゆったりとお済ませいただきます。その際にはこれからの観光プランや夕食処などのご相談をお気軽にお受けします。

エレベーターで客室階に上がると、目の前には吹き抜けの中庭が眼前に広がります。天気の良い日は青空、夜は月の明かりが望める、その空間はしばしゲストの足を止めます。廊下はまさしく金沢の街の路地のイメージです。その夜の別邸となるお部屋に至るころには、もう金沢の上質な空間と時間の中にいらっしゃることでしょう。

ストレスフリーな設備を用意

ホテルには宿泊特化型であるにも関わらず、ゲストにストレスを感じないで過ごしていただけるよう、十分な施設を用意しました。朝食専用レストランとなる朝餉処（営業時間 7:00～10:00 / 9:30LO）は個室スペースも含め最大 60 席で、天候に恵まれる時期は用水の流れや敷地内の緑を楽しめる「川のテラス」で朝食を摂ることも可能。両サイドの窓からそれぞれイメージが違う二つの庭の風情が楽しめる空間で、木の質感を効果的に使っています。オープンキッチンスタイルを生かし、シェフによる料理実演も採り入れ、地元食材「じわもん」や郷土料理をふんだんに加えた和洋buffetを無料で提供します。また、隣接のラウンジはゆったりと飲み物を楽しみながら時間を過ごせる空間で、1日のスケジュールを考えたり、余韻を楽しんだりするスペースとして最適です。朝食の際はカウンター式の食事場所に利用することもできます。

男女別に設けた湯屋は敷地内の井戸から汲み上げた白山山系の百年伏流水といわれる地下水を使っており、ミネラルも豊富。湯上りの一服や待ち合わせに使えるリラクゼーションコーナーや最新機能が付いたマシンを備えるトレーニングルーム、無料で使える洗濯・乾燥機もあります。いずれも金沢の里山をイメージした「山の庭」に面しています。ライブラリーを各客室階に用意しており、「中の庭」を眺めながら金沢ゆかりの本や雑誌



朝餉処（レストラン）



朝食イメージ

を読むことができます。

また、各客室階では金沢卯辰山工芸工房とのコラボレーションによる「工芸回廊」を楽しむことができます。客室の前に設けた専用ギャラリースペースには同工房の技術研修生が作ったデザイン性豊かな作品が飾られ、若手工芸作家たちの知名度アップや販路確保の支援に貢献します。希望者向けに販売も行う予定で、滞在中に気軽に工芸都市金沢の豊かな土壌に触れてもらえる良い機会となることでしょう。そのほかにもロビーやラウンジなどには季節のたたずまいを写した加賀友禅の着物や大樋焼作家大樋年雄氏の手による、金沢の春夏秋冬を表現した大樋焼レリーフがゲストの目を楽しませます。

金沢駅との間を無料でシャトル送迎

ホテルへのアクセスは JR 金沢駅金沢港口(西口)から車で5分の距離にあり、同駅金沢港口(西口)の団体バス降車場を起点にシャトル送迎車を運行、観光の交通手段としても活用いただけます。また、金沢東、西両インターチェンジからは車で約10分の距離で、駐車場も常時16台分を敷地内に確保しています。

館内外は段差をすべてなくし、バリアフリーの環境をつくっています。また、点字ブロックやエレベーターの音声案内などの補助ツール、英語によるバイリンガル表示にも配慮したサイン表記などユニバーサルデザインも導入しています。インフォメーションコーナーには無料で使えるパソコンやプリンター、コピーなどを配備するほか、地域の観光情報をそろえています。また、夏期には街歩きを和の装いで楽しめるよう、レンタルできる浴衣などを用意します。間近で見られる花火大会の時期には好適です。

全員が金沢のコンシェルジュ

当ホテルでは全員が「金沢コンシェルジュ」になることを目指しています。特に夕食場所として館外の料亭や寿司店、居酒屋などの味どころを紹介するシステムを取っていることもあり、フロントサービスやロビーサービス、レストランサービスや送迎車ドライバーにいたるまで、金沢のことについてはおいしい店から穴場の観光スポットまで知り抜いたメン



ロビー

バーを揃えています。ちなみに地元経済団体が実施する、全国最難関といわれるご当地検定「金沢検定」においては上級合格者が1名、初級合格者が5名在籍。夕食処の紹介をはじめ、各種体験スポットの提案や周遊ルートのプランニングなどに積極的に対応します。

このためにも余計な業務を省き、効率的に接客にあたることができるよう、すべての料金を宿泊費にインクルーズし、チェックイン時に精算していただくことで、おもてなしの部分に多くの時間を割けるようにしたほか、スタッフが多くの業務を担当できるよう、トレーニングの時間を日々確保するなど、ソフト面での効率化も進めています。

また、女性スタッフの重用、シニア戦力の活用という、時代の要求に応じた従業員の採用も進めました。女性スタッフは全体の半数を占め、ナンバー2の副支配人に40代の女性を登用しました。また、朝食調理や車両送迎、庭の管理などにグループ内外からシニア世代の採用、登用を促進、特に調理スタッフは地元シティホテルの総料理長経験者を料理長に迎え、平均年齢62歳という年齢構成ながら、長年各方面で培った技術を生かして、「おいしい朝食」づくりに全力を投入しており、一方では労働時間の短縮などによりコスト削減にもつなげています。

目指すのは新しいホテルタイプ

国内のホテルマーケットでは「宿泊特化型」が新たな顧客層の開拓のキーワードとなっており、ビジネスホテルだけでなく、都市型ホテルや旅館の側からもさまざまなアプローチの試みが進んでいます。

ビジネスホテルサイドからはアッパーミドルにターゲットをシフトさせたプレミアム型が現れ、都市型ホテルからは宿泊機能のみを持たせた第二ブランドが登場しています。一方で、旅館側も「泊食分離」の流れの中で、宿泊機能と食事機能を施設の中で分離させる動きも加速しています。

当ホテルの建設では宿泊特化型ホテルという時代が求める流れを受けながらも、その性格付けにとらわれず、機能面、施設面、そしてソフト面から、ゲストが気軽に何度でも「金沢の別邸」として暮らすように宿泊できるホテルづくりに向けて、地方都市における新たなホテルモデルの確立を目指しています。

● 施設データ

- 建設地：石川県金沢市長田2丁目4番8号
- 建設主体：高田産業グループ
- 名称：金沢彩の庭ホテル（かなざわ さいのにわホテル）
英語表記 KANAZAWA SAINONIWA HOTEL
- 建設概要：敷地面積 4,593.75 m²
建築面積 1,557.52 m²
鉄骨4階建て一部2階建て 延床面積 4,938.03 m²
以上、待合スペース含む

● アクセスデータ

- 代表電話：(076) 235-5111
- 代表Fax：(076) 235-5112
- 予約直通：(076) 235-3128
- H P：www.sainoniwa-hotel.jp
- 予約アドレス：info@sainoniwa-hotel.jp

● 企業データ

- 経営主体：高田産業グループ
- 運営主体：株式会社金沢彩の庭ホテル
本社所在地 石川県金沢市長田2丁目4番8号
設立年月日 平成26年6月25日

● コーポレートデータ

- 経営主体：高田産業グループ
（高田産業株式会社、株式会社高田組、株式会社金沢舗道）
- 運営主体：株式会社金沢彩の庭ホテル
 - 本社所在地 石川県金沢市長田2丁目4番8号
 - 設立年月日 平成26年6月25日
 - 資本金 1,000万円
 - 年商予測 4億3,000万円（見込み）365日換算／税別
- 初年度目標：平成27年3月9日～12月31日（298日営業）
 - 売上高 3億5,000万円／税別
 - 稼働率 75%
 - AGR 11,241円
 - ADR 24,505円
 - RevPAR 18,378円
 - DOR 2.18名